

ISSA 海外論文要約より

社会保障に関する当面の諸問題

Albert Delpérée (ベルギー)



本稿には、ベルギーにおける将来の社会保障に生ずる諸問題が分析されており、EEC に対する特殊な参考資料も示されている。

将来における社会保障は、高い生活水準に対する附加物としてではなくて、変容する社会のダイナミックな一部として、ヨーロッパの経済界に採用される一つの手段であると理解されており、その手段階は保護に対する全般的なニードを満足させる、よりすぐれた方法を常に求めている。しかし、社会的移転の再分配は既得権と心理的先入観を伴う論争となるので、ベルギーの社会保障がもつ目的と

方法に関する議会の決定は、客観的な研究に基づくべきである。社会保障はベルギーにおいて、また EEC 加盟国のいずれの国においても、社会的、経済的および財政的政策の重要な一部門となってきた。これは、社会保障費の増大が単に財政的な問題としてだけでなく、変容する社会の全般的な経済との関係において考察されなければならない、ということを意味している。ベルギーの制度は、ベヴァリッジ報告に示された調和、普遍および統合の 3 原則と完全には一致していない。その制度は調和を欠き、また、事実上では普遍的であるにもかかわらず、社会的疾患、労働

不能および失業に対して保護を提供する各制度が、きわめて大きな財源を政府から支出されているという意味を除き、ベルギーの社会保障は統合からはるかにかけ離れている。稼得活動者と非稼得者と非稼得活動者との間における水平的再分配は、事実であるが、しかし、裕富な人びとから裕富でない人びとに対する垂直的再分配は、最高所得制限のために、ほとんど明らかでない。

論題に関する知識と情報が広くゆきわたっていない。そこで、社会保険省は別々の各大学に一連の研究を開始させ、研究機関と大衆が利用できる書類を現在作成している。社会保障の継続的な成長に役立つ諸要素を分析して後に、社会保障制度が経済にとって耐え難いものであるし、また、いぜんとして所得の悪分配という結果を生むに至るので、基本的な問題は社会保障制度の財政的均衡ではなくて、国民所得に関連する総合的な負担の形成、使用者、労働者および市民の間における負担の配分、および、たとえば社会保障の有効性のように、ニードのカバーされる程度で

ある、ということが指摘されている。なお、もし討議が財政的側面に制限されるならば、社会保障のもつ幅広く、かつ盛りたくさんな目的、および各個人と家庭の保護を改善する方向を目指す一般的な傾向は、忘られる傾向があるということも、心にとめておかなければならない。経済発展計画と、ニードの事実上の優先に関連をもつ社会的移転政策とを調整する必要があるが、次第に多くなっていると、EECの委員会は述べた。明日のヨーロッパでは、カバーされなければならないニードが決定されてしまえば、社会保障制度は、全員に対する社会保障を通じて行なう国民所得のある分配組織と、たとえばある時期にわたる個人所得の再分配のように、収入を保険するある制度との統合体であるかもしれない。今日における社会保障の問題に、社会保障のテクニクによりカバーされる各種のニードと適用の段階的基準を明確にすること、個人、職業および公的機関の別による財源調達を決定すること、および社会保障に寄与する国家予算の割合で構成されている。

今日における社会保障の困難は、制度それ自身のもつ危機にでなくて、むしろ現代社会の発達に関連して育ってくる危機を説明している。社会保障の性格が、特定グループの権利を保護する方式を永続させることよりも、むしろ保障に対する全般的ニードを満足させるよりすぐれた手段を、絶えず求めるべきであるということ、社会保障の性格が要求していると、EECの委員会に述べた。結局、現在の社会保障制度は十分に練り直すことを要求している。それは社会保障において経済の目的を果たさせる問題ではなくて、最も必要としている人びとを援助するという点でより大きな効果を目指すという観点から、社会保障の方法を改革するという問題である。拠出も公的な補助金も、無制限に増大を続けることはできない。所得政策の一部として、再分配に対し、新しい基準が定められる必要がある。社会保障の概念は、現実的なニードと、適切な広報活動をもつ中期的および長期的な予測とに基づき、ダイナミックでなければならない。EECでは、さきに概述した重要な選択について、決定を長く引き延ばすこ

とができない。

Current Problems of Social Security in Belgium. "Problèmes actuels de la sécurité sociale belge", *Les dossiers de l'action sociale catholique*, No. 1, January, 1968, pp. 4-18; No. 77, '68.